

西岩野遺跡発掘調査 現地説明会資料

令和 7 (2025) 年 8 月 23 日 (土)
調査主体 柏崎市教育委員会
担当 博物館埋蔵文化財係
調査支援 株式会社ノガミ

1 遺跡の概要

西岩野遺跡は、柏崎市大字山本・長崎・土合に所在する、通称「岩野台」の上に広がる遺跡です。主に弥生時代後期（約 1,800 年前）の遺構や遺物が確認されていますが、古墳時代前期（約 1,700 年前）や平安時代（約 1,100 年前）など、さまざまな時代の痕跡も見つかっています。

平成 29（2017）年度に県道改築工事に伴い行った発掘調査では、新潟県内で初めてとなる弥生時代後期の大型掘立柱建物を発見しました。さらに、玉類を副葬した墓や古墳時代前期の円墳なども確認され、大きな注目を集めました。こうした成果を受け、柏崎市教育委員会は新潟県等の関係機関と協議を重ね、道路改築工事の計画を変更していただくことで、重要な遺構のほぼ全域を現状のまま保存することができました。

その後、令和 2（2020）年度から行った県道改築工事に伴う発掘調査では、弥生時代後期の竪穴建物、墓、土器をまとめて廃棄した跡なども確認されています。

2 確認調査の概要

西岩野遺跡の適切な保存と活用を進めるため、これまで未調査であった部分を対象に、令和 6（2024）年度から確認調査を開始しました。

令和 6（2024）年度は 3 か所の調査区（約 124 m²）を調査し、弥生時代後期の墓とみられる土坑、掘立柱建物を構成すると考えられる柱穴、そして用途不明の段状遺構を確認しました。

令和 7（2025）年度は、8 か所の調査区（約 109 m²）で調査を実施しています。本年度の調査は、前年度に確認した段状遺構の性格を解明するとともに、未調査範囲における遺構や遺物の分布状況を明らかにすることを目的としています。

3 調査成果

竪穴建物

昨年度の調査で TR3 とした調査区で段状遺構を確認しました。これは、平成 29（2017）年度の調査で調査区の南端部で見つかった SD239 の延長線上にあり、一連の遺構であると考えられました。

今年度の調査でこの遺構の性格を調べるために設定した TR4 で、段状遺構の壁面が南西方向に曲がっていることが分かりました。さらに、でこぼこの多い底面に粘土を貼り付けて平らに整えていることも確認でき、この遺構が大型竪穴建物の一部である可能性が高いと判断されました。北東側の壁の長さは 9.4m 以上あり、竪穴建物だとすれば当時としてはかなり大型のものとなります。建物の角が直角よりもやや広がっているため、平面形は亀甲型の六角形など多角形であった可能性があります。ただし、地滑りによって大部分が失われているため、全体像や規模を正確に知ることはできません。

この竪穴建物は、当時の地面から硬い地山を約 60cm 掘り下げています。壁際には柱穴が、さらに壁板を立てたとみられる溝も確認されました。現在のところ全体像のごく一部しか見つかっていないため、建物の構造については今後さらに検討が必要です。

また、この竪穴建物から出土した土器には時期を特定できるものが少ないため、科学分析を活用して使用された時期の解明を進めていきます。

その他の成果

その他に、掘立柱建物を構成すると考えられる柱穴も複数見つかりました。出土遺物には、当地域で一般的に使われた北陸系の弥生土器だけでなく、他地域から持ち込まれたとみられる土器や縄文文様を施した土器もあります。さらに、勾玉や管玉の素材として利用されたヒスイや緑色凝灰岩も出土しています。



大型竪穴建物



大型竪穴建物全景（西から）



平成 29(2017) 年度に検出した大型竪穴建物（東から）



大型竪穴建物全景（東から）

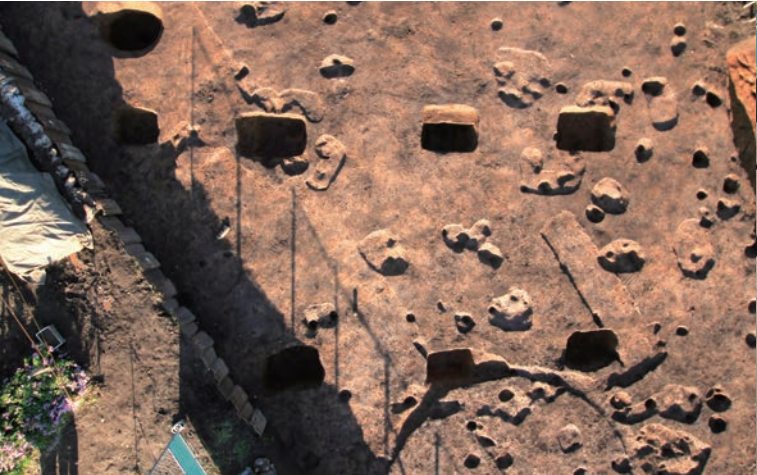


大型竪穴建物空中写真（上が北）



貼り床と柱穴と壁溝（東から）

県道改築工事に伴う発掘調査の成果



大型掘立柱建物〔平成 29(2017) 年度〕



方形周溝墓〔平成 29(2017) 年度〕



方形周溝墓の玉出土状況〔平成 29(2017) 年度〕



円形周溝墓（円墳）〔平成 29(2017) 年度〕



大型高杯の出土状況〔令和 2(2020) 年度〕



竪穴建物の土器出土状況〔令和 4(2022) 年度〕



竪穴建物完掘〔令和 4(2022) 年度〕



竪穴建物から出土した土器〔令和 4(2022) 年度〕